台湾日本語文学報
29

【刊行の辞】
曾秋桂
『台湾日本語文学報』29号刊行序文................................. 1

【論文】
曾秋桂 語り手のトリックから解く村上春樹『1Q84』
一牛河という人物を中心に一 .............................. 3
德永光展 女性という存在とエリート養成—城山三郎『素直な戦士たち』論—29
戸田一康 葉石濤の「夜明け」及び「米機敗走」
一初期日本語作品に現われた思想傾向について一 .......... 53
顧錦芬 『ごろ』における「静」の声 .......................... 77
王淑婷 川端康成「死体紹介人」の時間と空間......... 101
鄭家瑜 『古事記』に見る雄略天皇像 ......................... 125
黃如萍 江戸川乱歩「人間椅子」試論—ディケンズの受容に触れつつ一 147
落合由治 メディア・テクストにおけるビジュアル要素の形式とその機能 169
呂泰芳 『話し言葉コーパス』 (CSJ) の会話資料における話題導入の考察
一ポライトネス理論の観点から一 .............................. 195
濱屋方子 「どうも」の使用状況とそのイメージ 一及び日本語教育での扱いに
ついて一 ......................................................... 221
御舘丸里惠 “言語共同体”の構築における「学び」の喚起一異言語話者による
羅耀勳 電子メール通信という架空空間にて一 .................. 247
江秀姿 台湾人日本語学習者の語彙学習ストラテジー
一学習年数と日本語能力の影響一 ............................. 267

【教育研究報告】
黃淑妙「日中パラレルコーパス」の構築とコロケーション研究
一CTLJとの比較を例に一 ................................... 291
楊煥文 アフレコを用いた日本語音声教育の実践とその効果
川合理恵 一音声コミュニケーション重視の視点から一 317

【活動彙報】
2011年1月〜6月例会要旨および活動報告 ......................... 343

2011年6月
台灣日本語文學會
關於「どうも」的使用狀況、印象以及對外國人的教授

濱屋子方
靜宜大學日文系兼任助理教授

摘要

本論文主要是探討在使用上出現分歧的打招呼用語「どうも」的單獨用法。

本論文進行以下三項調查：一為「どうも」的使用場合與使用對象；二為「どうも」使用的印象；三為對「大家的日語」介紹的「どうも」使用場合的印象。

調查發現，最常使用「どうも」的場合與比例依序為道謝 71.7%，見面 63.5%，道別 32.4%，以及道歉的 24.2%。在「道謝」的場合中，「どうも」的使用除了「謝謝」外，也出現「（難以言謝的）諷刺意味」或是「想要與對話者保持距離」的印象。

在上述的場合外，也有不知道為什麼要說「どうも」的狀況。再者，調查中也發現，不單獨使用「どうも」的比例為 11%，其中男性 5.5%，女性 17.4%，出現性別差異的現象。

大致而言，在性別與年齡層方面，使用「どうも」與對「どうも」的印象出現差異的現象，而女性認為「どうも」是粗魯的打招呼用語。

「大家的日語」調查外國人將「どうも」做為道謝用語是否適當時發現，24.2%的日本人認為外國人會在找人時對該同事道謝時使用，而 38.4%的日本人認為外國人在向陌生人問路時使用則感覺「稍嫌不禮貌」。

本講義研究發現，在初級日語的層級中，教授「どうも」的單獨使用是否恰當，是值得商榷的。

關鍵詞：どうも 問候語 「どうも」的使用場合 「どうも」的印象 「どうも」的教授
On “Doumo” As a Greeting:
Is It Appropriate To Teach “Doumo” in Beginner’s Classes?
Hamaya Masako
Assistant Professor (Part-timer), Providence University, Taiwan

Abstract

This research is on “Doumo” which is used as an independent greeting. The points are three: 1. On what situations and to whom is “Doumo” used? 2. What kind of images do Japanese speaking people have toward “Doumo”? 3. The impression of “Doumo” which is presented in “Minna no Nihongo”.

The typical scenes where “Doumo” is used are the opening greetings (63.5%) and the gratitude (71.7%). On the other hand, 11.4% of the respondents (male 5.5%, female 17.4%) answer that they do not use “Doumo” as an independent greeting. As for the objects “Doumo” is used to, also differences are observed between men and women. “Doumo” is recognized somehow as a slightly impolite greeting by women and by elderly people too.

The 3 images written down by majority of respondents were casual 125 (persons), affinity 87 and flippant 50.

As for the impression of “Doumo” used by foreigners in “Minna no Nihongo”, when it is used toward a colleague, 24.2% and toward a passer-by 38.4% of responders answers slightly impolite.

From the result of this survey, we should be careful about teaching “Doumo” as an independent greeting in beginners’ classes.

Key words: “Doumo”, greetings, the usage condition of “Doumo”, the image of “Doumo”, “Doumo” in teaching Japanese.
「どうも」の使用状況とそのイメージ、及び
日本語教育での扱いについて

濱屋方子
静宜大学日本語文学科兼任助理教授

要旨

本稿は、多岐に亘る場面で使用可能な挨拶、「どうも」の単独用
法について調査結果を分析し、日本語教育での扱いを考察する。考
察は、1. 「どうも」の使用場面と使用対象、2. 「どうも」のイメージ、3. 『みんなの日本語』提示の「どうも」使用場面に対する印象
の3点である。

「どうも」は特に「出会い」と「謝礼」に多用されている。謝礼
に「どうも」を使う場合では、「軽い謝礼」の他に、「油里難迷惑と
いう」皮肉の表明」「物品をくれた人との距離を取りたい時に」等の記
述もあった。

単独では用いないという回答も11.4%あり、男性5.5%、女性17.4%
と男女間に差が見られた。「どうも」を用いる対象、「どうも」に抱
くイメージにも男女、年齢による差があり、女性の方に「どうも」
は粗雑な挨拶という印象を持つ人が多いことが窺われる。

『みんなの日本語』で、外国人が「どうも」と礼を言う場面を妥
当と思うか、という質問への回答は、同僚への軽い謝礼は24.2%、
未知の人に対して聞いた時の礼としては38.4%が「やや無礼だ」と答
えている。

以上の事から、初級日本語の教室で「どうも」単独の挨拶を教え
るのは、一考を要すると思われるのである。

キーワード：どうも 挨拶 「どうも」の使用場面 「どうも」の
イメージ 初級日本語における「どうも」の扱い
「どうも」の使用状況とそのイメージ、及び
日本語教育での扱いについて

濱屋方子
静岡大学日本語文学科兼任助教

1. はじめに
挨拶に用いる「どうも」には、「どうもありがとうございます」「どうもすみません」などと謝礼や陳謝を強調する修飾用法と、「どうも」だけで用いる単独用法があるが、本稿で問題とするのは、この「どうも」単独での挨拶である。
「どうも」の単独用法は様々な場面に使えて便利な挨拶ではあるが、外国人向けの初級教科書のお礼と言う場合で、初級の段階から「どうも」を提示することに、筆者は疑問を持っていた。「どうも」を習得した外国人がそれを多用し、聞き手から不快感を抱かれて、人間関係やビジネスなどに支障を来さなければいいが、と疑問を抱いてきたのである。
そこで「どうも」は、実際にどんな場面でどのような対象に用いられているのか、またどのようなイメージが持たれているのかを知り、日本語教育での扱いの参考とすべく調査を行った結果を報告したい。

2. 先行研究
「どうも」という挨拶が副詞の「どうも」に由来することは、言を俟たない。佐治圭三氏（1995:14-17）は、副詞の「どうも」を「どうしても」と比較し、「どうしても」が事柄の内容のあり方に関わる語であるのに対して、「どうも」は話し相手の気持ちの表現に関わる陳述副詞である、と対比される。「どうも」で表現される気持ちを氏は、「事柄のありかたがはっきりしないという、話し手の、もやもやとしたじれったい気持ち」（p.16）であると述べ、「どうもありがとう」「どうもすみません」などの「どうも」が係って行く先は話し手の
謝礼や陳謝の気持ちであるものの、「どうも」は「本当にありがとう」と
「本当にすみません」などの程度副詞1による単純な強調とかがい、
話し手が自分の感謝や申し訳なさ等を的確に表せないじれったい気
持ち、「ああも、こうも、どうも表現できないあたりがたくさん思う」
(p.17)といった気持ちを陳べている、とされるのである。

氏は、「どうも、お待たせしました」のように、事実だけを述べ
ているように見える表現にも、「すみません」が略されていて、聞き
手も「すみません」の気持ちが含まれているものとして、受け取っ
ている、と述べられているのであり、よく納得できる。だが、「どうも」
の単独用法には、言及されていない。

「どうも」の単独用法は、謝礼、陳謝や出会い、別れなどの諸場
面で広く用いられるが、金田一春彦氏（1975: 38-40）は「どうも」
の万能性について、日本人が寡黙を貨び、話す時には最小限の表現
にとどめることをよしとした伝統の一環であるとされる。また日本
語には最も大切なところは、言わずに相手の付度に入だねという伝
統もあり、「どうもありがとうございます」「どうも失礼いたしまし
た」などの感謝や陳謝を表す語は表現せずに、「どうも」だけが残っ
たのが「どうも」「どうも、どうも」という間投詞化された用法であ
る、と解説されるのである。ある意味で核心をついてはいるが、別
の側面から見ることもできる。沢木幹栄氏・杉戸清樹氏（1999:
131-132）は、そもそも挨拶言葉には、世界のどこでも、ひと度定型
化するとその語形・音形は「摩滅する」傾向が見られる、と指摘す
る。“Hello!”から“Hi!”へ、“Thank you.”から“Thanks.”へな
どがそうした例であるが、「どうも」もその一例とされるのである。

つとに挨拶そのものを、鈴木孝夫氏（1968: 19-30）は、機能の
面から「直説的」「叙述的」「詩的・創造的」に3分類された。氏の
分類はその後、野元菊雄氏・沢木幹栄氏・杉戸清樹氏等、挨拶を研

1 引用文献では「本当に」を程度副詞と見なしているが、工藤浩氏（1985）は、
程度副詞とは熟さないもののその働きをするものとして、「程度副詞の周辺
語」とされる。「程度副詞をめぐって」三鷹日本語研究所ホームページによる
探究する人たちは影響を及ぼしてきたが、「直説的」とは、その語自体にはさされた意味はなく、単に「人と人を心理的に安定した共通の場に引き入れる役割を持つ」だけの語、即ち日本語で言えば、「ヤァヤァ」「よっ」などの出会いの挨拶を意味する。また「叙述的」挨拶とは、「お早うございます」「さようなら」「ありがとうございます」などの、意味を持ちつつ社会で定型化された表現である。「詩的・創造的」挨拶とは、祝詞・スピーチ等を指す。

「どうも」の単独用法は、鈴木氏の分類からすると、「直説的」挨拶であるとともに、「叙述的」挨拶でもある、という二重性を持つ。出会いの場面に用いられる「どうも」は、多くの場合「直説的」挨拶の一種と言える。しかし、一見「直説的」のように見える、出会いや別れの場面での「どうも」も、例えば会社に来た初対面の客に「どうも、どうも、課長の○○でございます」と迎える側の会社の者が言ったすると、その「どうも」には、前掲佐倉氏に述べられているように、「お会いすることができます光栄です」「ご足労いただきありがとうございます」「お待ちしていますませんでした」などの感謝や陳謝の意が込められることもある。

感謝や陳謝に用いる「どうもありがとうございました」「どうもすみません」の省略形としての「どうも」は鈴木氏の分類によれば「叙述的」挨拶である。

住田幾子氏（1993：215-223）には、「どうも」の、感謝・詫び・ねぎらいなどの挨拶文の修飾語としての用法から、「どうも」だけの単独用法に至る過程が述べられているが、それは学生の内省記録の分析によるものであった。

先行の研究を参考としつつ、以下に筆者による「どうも」の調査結果を報告し、考察を加える。

3. 調査の概要

「どうも」の使用状況等に関するアンケート調査は2009年6月から8月にかけて質問用紙による個人への郵送方式と配票留め置
き方式とによって行った。180 名に郵送・配票し、219 名から回答を
得る、という倉倉に浴したのだが、それはアンケート用紙を受け取
った人の中の 4 人がコピーして勤務
先の同僚にも回答
を願ってもらった他,
家族からも回答を
もらってくれた人
がいたからだった。調査協力者は無作為抽出によるものではなく、
筆者の友人・知人、1973 年から 2003 年まで教えた日本の高校の卒
業生、及びその同僚や家族、勤務校への日本からの留学生等々であ
るので、ずすから限界は否めないものの、いくつかの興味深い結果
を得ることができた。

男女別・年代別内訳は、表 A の通りである。なお協力者は 8 名の
非母語話者を含むが、全員、幼少時からの日本滞在、或いは日本語
使用歴・滞在歴 20 年以上の準母語話者と言える高度な日本語の使用
者であるので、そのまま分析対象に加えた。アンケートは以下の質
問からなり、複数回答を含む択一式と記述式を併用した。

【質問事項】

【I】「どうも」という挨拶をよく聞くと思うか

【II】どのような場面で、またどのような対象に「どうも」を用
いるか

【III】「どうも」という挨拶を使い始めたのは、いつ頃からか

【IV】外国人向けの初級日本語の教科書に、「どうも」と礼を述べ
る場面についてどう思うか

【V】「どうもです」という挨拶をどのようなときに用いるか

【VI】「どうもです」に対する感想

【VII】葬式に出席した場合の挨拶について、家族にどのような挨
拶をするか
【Ⅷ】三つのキーワードで示すとしたら、「どうも」のイメージは何か
【Ⅸ】「どうも」について思うところがあれば自由に記載を
（Ⅱ）（Ⅴ）（Ⅷ）は複数回答可）

上記の質問事項から、本稿で分析する質問事項は次の３点である。
【Ⅱ】の、「どうも」を使う場面と対象
【Ⅷ】の、「どうも」のイメージ
【Ⅳ】の、初級日本語教科書に見られる「どうも」の使用は妥当か否か

加えて【Ⅱ】、【Ⅳ】の設問の最後に記された自由な記述及び【Ⅸ】に応えて述べられた意見・感想も、随所で考察・分析の参考とした。
【Ⅱ】に33人、【Ⅳ】に71人、【Ⅸ】に96人の記載があった。

4、「どうも」を使う場面と対象
4.1 「どうも」を使う場面
全体の傾向、男女別傾向、年代別傾向の順に報告し、考察する。

4.1.1 全体の傾向
アンケートでは「どうも」を用いる場面として、1.「出会い」、
2.「別れ」、3.「電話の始め」、4.「電話の終わり」、5.「メールの始め」、6.「メールの終わり」、7.「お礼」、
8.「お詫び」の8場面を設定し、9.「その他」と及ぶ10.「『どうも』単独では用いない」を加えた。グラフ1はその結果である。（本稿における棒グラフの上数字は%を表す。）
「どうしても」が最も多く用いられる場面は、「お礼」、次いで「出会い」で、分析対象者の 50%以上が「用いる」と答えたのはこの 2 場面であった。

しかし、「出会い」に用いる人は 63.5%と多いが、「別れ」に用いる人はその約半数の 32.4%である。「お礼」に用いる人は最多の 71.7%であったが、「お詫び」に用いる人は、24.2%と「お礼」に用いる人の約三分の一にすぎない。また、出会い・別れのように直接会っている時の方が、電話やメールの始め・終わりよりも使用率が高い。

「その他」9.6%の回答には、「取引先の営業担当者と久しぶりに会ったとき」（50年代・男性）、「『どうしても』と声を付けられたとき」（60年代・男、20代・女）、「皮肉を言うとき」（20年代・男）、「あまり親しくない人に挨拶しなければならないとき、言葉を選ばせなで、とりあえず「あえず」（50年代・男）、「初めて会った人に挨拶するとき」（20代・男）等々、各名深い多様な場面が記されていたが、「言葉を選びかねて」用いられる「どうしても」については、佐治武三氏（著書）が述べられるように、まさに「どうしても」の原義に近い用法であり、2010年4月10日の台湾日本語教育学会春期研究発表会で筆者も考察を試みた。

挨拶として「どうしても」を単独では使わないという回答が 11.4%うち 1割強あったが、次に述べるように男性・女性間に差が見られた。

4.1.2 男女別傾向

表 B 及び次ページのグラフ 2 は、「どうしても」を使う場面を男女別に示したものであるが、殆どすべての場面で男性の使用率が高くなっている。今回の調査結果からは、「どうしても」単独での挨拶は男性の方多く用いている、と言える。

表 B「どうしても」を使う場面 男女別（%）

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>出会い</th>
<th>別れ</th>
<th>電話はじめ</th>
<th>電話終わる</th>
<th>メールはじめ</th>
<th>メール終わる</th>
<th>お礼</th>
<th>お詫び</th>
<th>その他</th>
<th>使用しない</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>男</td>
<td>71.8</td>
<td>39.1</td>
<td>30.9</td>
<td>25.5</td>
<td>6.4</td>
<td>1.8</td>
<td>80</td>
<td>30.9</td>
<td>10.9</td>
<td>5.5</td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
<td>55.0</td>
<td>25.7</td>
<td>14.7</td>
<td>11.9</td>
<td>5.5</td>
<td>2.8</td>
<td>63.3</td>
<td>17.4</td>
<td>8.3</td>
<td>17.4</td>
</tr>
</tbody>
</table>

逆に「どうしても」を使わない、という回答は女性に多く、「使わない」
という11.4％の人が男女別に見ると、男性5.5％、女性は17.4％であった（男性110人中6人、女性109人中19人）。

なお、「どうも」を用いない、という人には、用いない事への強い思いがあるようで、「使わない」にチェックを入れただけでは足りず、「『どうも』だけでは終わらせない」（70代・男）、「自分は使わないようにしているが、相手が使った場合気にしないようにしている」（60代・男）や友達との間で「どうも」は使わないし、殆ど聞いたこともない」（20代・女）等々、各自の言葉で使用しない旨を書き込んでいる人が少なくない。自分自身は「使わない」「余り使わない」「使わないようにしている」等々の記述が、質問【Ⅱ】の事由記載の欄に13例あり、【Ⅸ】にも8例の記述があった。

4.1.3 年代別傾向
表C及び次ページのグラフ3は「どうも」を使う場面を年代別に見た結果を示すものである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>年代</th>
<th>出会い</th>
<th>割れ</th>
<th>電話</th>
<th>電話</th>
<th>メール</th>
<th>メール</th>
<th>お礼</th>
<th>お絵び</th>
<th>その他</th>
<th>使わない</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>20</td>
<td>63.6</td>
<td>25</td>
<td>27.3</td>
<td>18.2</td>
<td>15.9</td>
<td>6.8</td>
<td>84.1</td>
<td>15.9</td>
<td>18.2</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>30</td>
<td>63</td>
<td>19.6</td>
<td>17.4</td>
<td>19.6</td>
<td>8.7</td>
<td>0</td>
<td>67.4</td>
<td>10.9</td>
<td>4.3</td>
<td>21.7</td>
</tr>
<tr>
<td>40</td>
<td>66.7</td>
<td>38.9</td>
<td>36.1</td>
<td>27.8</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>72.2</td>
<td>30.6</td>
<td>0</td>
<td>8.3</td>
</tr>
<tr>
<td>50</td>
<td>65.9</td>
<td>31.8</td>
<td>11.4</td>
<td>15.9</td>
<td>2.3</td>
<td>4.5</td>
<td>63.6</td>
<td>36.4</td>
<td>11.4</td>
<td>15.9</td>
</tr>
<tr>
<td>60</td>
<td>59.2</td>
<td>46.9</td>
<td>24.5</td>
<td>14.3</td>
<td>2</td>
<td>0</td>
<td>71.4</td>
<td>28.6</td>
<td>12.2</td>
<td>10.2</td>
</tr>
</tbody>
</table>

「出会い」の場面では、どの年代も多く用いているが、「別れ」
の場面では、20代 25%、30代 19.6%、40代 38.9%、50代 31.8%、60代 46.9%と年代が高い層が若き層より多く用いている様子が見られる。「お詫び」についても20代・30代の若き層より、40代以上の中高年層の使用率の方が高い。「どうも」は軽い雰囲気を持つので「お詫び」に用いるのは難しい面も持つが、年齢を重ねると「どうも」にもそれなりのニュアンスを持たせて、お詫びに取り入れるということが考えられる。

別れについては、若い世代は「じゃあね」「バイバイ」など年配者には使いにくい挨拶表現を持っていることが大きいと思う。

逆に「お礼」の場面での使用は20代が84.1%と最も高い。また「どうも」を使わない、と言えたのは、20代だけが0%であった。つまり20代の調査協力者は全員「どうも」を何かの挨拶に使っている、ということである。「どうも」にどちらかといえば中高年のイメージを抱いていた筆者には、些か意外な結果でもあった。

以下に、特に多かったので「出会い」と「お礼」の場面に用いられる「どうも」について、アンケートに自由に記載されていた内容を中心に考察する。

4.1.4 「出会い」の場面での使用

自由記載欄に述べられたことから見る「出会い」の場面での「どうも」の特徴は、最初に使う時は選ばない利便性、第二に挨拶いずれの対象に対しても用いるが、使い手から見ると、親しい間柄或いは親しさをアピールしようとする対象に用いる人と、「間柄を踏さな
い」程度に止めようとする疎遠な人に用いる人とに分かれる、ということである。

4.1.4.1 時を選ばず、1日に何度でも用いられる「どうも」
出会いの場面での「どうも」の使用は、63.5%だったが、表 B に示したように、男性71.8%、女性55.0%と、男女の使用率に大きな差が見られた。だが男性の中でも、「どうも」は、朝昼晩いつでも使えば便利だという指摘があった(30代・40代)。「お早うございます」「今日は」などの出会いの挨拶には交わすに相応しい時間があり、時を選ばず用いることはできないが、「どうも」はいつでも使える。この、時間に関わらず用いられるということが、出会いの挨拶としての「どうも」の多用につながる一因ではないか、と思われる。
さらに、「お早うございます」や「今日は」などが、同一の人と出会いの場面では一日に一度しか使えないのに対して、「どうも」は何度でも、出会いの度に使えることができる、という点も使用頻度を高めているのであろうか。これら二点において、「どうも」は近年特に職場内で「出会いの挨拶」としても多用されるようになった。「お疲れ様です」に類似している。

4.1.4.2 親疎いずれの関係にも用いられる「どうも」
「出会い」の挨拶として「どうも」を用いる対象との親疎の関係について言えば、「とりあえず頭を下げて間柄を繋いでおくか、というような場合」(60代・男)、「合コンで初めて会った者どうしだとか、面接会場などで偶々隣になった人と目があったときとか」(30代・女)、「親しくない親戚や葬式や結婚式で会ったときよく使う。余り話したわけではない人も『どうも』だけ言ってごまかす」(50代・女)などのように、余り親しくない人との挨拶として用いるという記述も見られた。

けれども逆に、「『どうも』単独で使う場合、親しい間柄以外では言葉が足りない」(50代・男)「『どうも』を使う前提として、親密
な関係、親近感が存在しなければならない」（50代・男）「"Hi!" という感覚で使う」（40代・女）と親しい間柄でこそ用いる、と述べている人もいる。また、お笑い芸人の登場時に「どうもー、誰かですー」という挨拶が多い、という指摘も5名からあり（50代・男、40代・男、40代・女、50代・女、60代・女）、NHKテレビのマスコット「どーもくん」の存在を喚起させてくれた人もいた（30代・男）。これらの「どうも」は客や視聴者に積極的に親近感をアピールしようとして使用されるものである。本文5.「どうも」のイメージに後述するように、本調査結果でも約40%の人が「どうも」に「親近感」のイメージを抱いている。

こうした「出会い」の場面の使用に見られる親疎を無視する二面性は「どうも」が「出会い」の挨拶としても多様な機能を持っていることを裏わせるものであるが、「どうも」だけだとあいさつとして足りない気がする。『どうもー、どうも』と言うとあいさつとして通用する（50代・女）「どうもー、どうもー」ではなく、「どうもー、どうもー」を使うことも可能（20代・女）、「重ねて（どうもー、どうもー）使うことで親しみを強調する」（50代・男）、「「どうもー」か「どうもー、どうもー」と二回言う」（40代・女）、「お笑いコンビの第一声「どうもー、〇〇です！」、営業担当の第一声「どうもー、〇〇です！」を思い出す」（50代・男）のように重ねて用いたり、語尾を長く引いたりして、親近感を表すという示唆に富んだ指摘・内省も述べられていた。

4.1.5 「お礼」を表す場面での使用

お礼を表す「どうも」は記述から見ると、主として二つの場面に用いられている。一つは「軽い謝礼」、他の一つは「距離を置きたい

---

2 1998年 BS開局10周年以来NIKのBS、続いて全国のマスコットとなっためいぐるめ。全国50の支局にその名前を募集して「どーもくん」に決定。「どーも」は山川静夫元アナウンサーの放送時の声を使用。ウィキペディア「どーもくん」・2009年8月電話でのNIKへの質問の回答による。「どーもくん」は現在も活躍中であるが、「どーも」の発音は次第に不明瞭になっている。
場面」「皮肉」などのニュアンスを含む場合である。

4.1.5.1 軽い謝礼

軽い謝礼としては、『“Thanks” という程度の軽いお礼に明るく用いる」「店の人から買った品物を受け取るときや、店を出るとき」「どうも」と言う」といういずれも20代・女性の回答があった。筆者自身はこうした場合には「ありがとうございます」と言うが、それは筆者が60代で、たいていは客である私の方が店の人より年上だから言えるのである。もし店員が同年輩や年長の人だったら、客は「ありがとうございます」と言わないうち、「ありがとう」は親しい間柄かつ、明らかに年下・目下の人への敬意の表現だからである。

しかし、特に日本の場合、『お客様は神様』で、客は店員より立場が上だという感謝を持たれる、店員に「ありがとうございます」と言うのは重すぎる、と感じるかもしれない。そうした状況を考えると、一般的には下の例にも示すように「どうも」「ありがとうございます」も明言するよりは軽い謝礼に用いられるが、目下・目下という待遇表現から見ると、この場合、「どうも」「ありがとうございます」以下で、「ありがとうございます」以上の敬意を表す語として選ばれるのではないかと考えられるのである。

他に、「宅配便を届けてもらった場合など」「職場で宅急便・郵便・新聞など、窓口に品物を置いていってくれた場合」(共に60代・男)のように、「ご苦労様」「ありがとうございます」「お世話様」などの挨拶に替え、それらより軽く「どうも」という様子が見られていた。

前述のように調査では、お礼を言う場面での「どうも」の使用が最も多く71.3%だったが、しかし逆に、記述欄に強い嫌悪感が記されていたのもまた、お礼を言う場面での「どうも」の使用についてであった。「どうもありがとう」を省略し、「どうも」だけで使っている人は礼儀がなっていない印象を受ける(20代・男)、「近所の店のおじさんが『ありがとうございます』の代わりに『どうもねー！』とお礼を言うが、余り感じがよくない」(50代・女)「どうも
ありがとう、どうしてもしませんでした、のないように最後まで言わないと相手に伝わない。いい感じは持たない」（60代・女）のような記述である。

「どうも」が軽い謝礼に用いられることが多いだけに、「どうも」だけで表されるお礼の気持ちが軽すぎる、と受け取られるからであろう。

4.1.5.2 距離を置きたいとき等、ニュアンスを込めて

「私が『どうも』とひとこと言うのは少し皮肉を込めたいときや、相手となるべく距離を置きたい時にあえて言うのであり、目上の人に言ったり、お礼の代わりに使ったりすることはない」という記載が、20代・女性にあった。

今回のアンケートの記述としては上記一例であったが、皮肉を込めた謝礼「どうも」では、高屋奈月氏（2001:24）『フルーツバスケット』7に「じゃあね、ものすごくつまらぬ時間をくれてどうも」が見られる。また距離を置く例としては、植村聡氏（2009:120）『おくったりと流した涙』に、高校時代、バレンタインデーにチョコレートをたくさん貰う級友がいて、「どうも」と軽く顔を下げてきさらりと受け取る姿がクールでかっこよく見えた、という回想シーンがあった。「ありがとうございます」と言って受け取ってしまえば、女生徒の気持ちを喜んで受け入れることになりかねない。そう誤解されないための配慮、即ち顔をかかせないようにの人からもチョコレートを受けて取るけれど、特別な好意を受け入れたわけではない、というくれた女生徒達との距離を保とうとする思いが、この「どうも」に表われるのである。相手と距離を置きたい、思いはするものの、しかし何らかの感謝の意は表すべきだ、というときに、はっきりとした感謝の言葉「ありがとうございます」を用いず、曖昧化する「どうも」を用いるのは、使い得て妙、と言えるかもしれない。
4.2 「どうも」を使う対象

アンケートでは、「どうも」を用いる対象として、目上の人の、同僚の人、目下の人、家族、見知らぬ人、の5つを想定して尋ねた。グラフ4に示すように、同僚の人と用いる人が72.1%と他に抜きんでて多くなっている。この調査からは、「どうも」が親密に添わす同僚の人と用いる人で用いられやすいことが窺われる。

4.2.1 男女別傾向

全体としては、「目下に用いる」が34.2%で、「目上に用いる」32.0%をやや上回っていた。だが、男女別に見ると、グラフ5のように、男性では「目上に用いる」が39.1%で、「目下に用いる」31.8%を上回っており、女性では「目上に用いる」は24.8%で、「目下に用いる」36.7%より約12ポイントも低くなっている。同僚の人についても、男性は83.6%が用いると答えているのに対して、女性は60.5%の使用率に過ぎず、男性より約23ポイント低い。つまり、男性は「どうも」をやや丁寧な言葉、女性はややぞんざいな言葉と認識している様子が窺われるのである。

「どうも」を家族に対して用いると答えている人は少なく、全体
では16.9%であるが、具体的な例として、「家族や友人に、「どうも」ではなく、「ども、ども」と重ねてよく使う」（20代・女）、「親に「どうもです」と感謝を表すことがある」（20代・男）、「娘（20代）は、小遣いを貸ると、『どうも』と言う」（50代・男）などの記述があり、若い人が家族にも「どうも」を用いている様子が窺われた。次項・表Dにも現れている。日本の場合、家族間では日常的には改まってお礼を言わない、という風習もあるようである。親に「ありがとう」とはっきり言うのが面はゆく、「どうも」と知って言ってしまうかもしれない。

4.2.2 年代別傾向
「どうも」を使う対象を年代別に見ると、表D及びグラフ6のように「目上に使う」という答えは、20代の38.6%から、60代以上の24.5%まで断滅する。世代が高いほど「どうも」をやんざいな言葉だと考えている人が多いと窺われる。また20代の三分の一以上の人は、「どうも」を目上にも使える丁寧な言葉と言葉を認識していることになる。言葉遣いだけではなく、服装や伝統的行事の守り方などから見ても、社会はカジュアルな方向に動いているので、こうした流れに沿って考えれば、「どうも」が長者にはぞんざいな挨拶として、若年層には少し丁寧な挨
5. 「どうも」のイメージ
5.1 アンケート統計に見られる「どうも」のイメージ
「どうも」についてどのようなイメージを持つか、今回の調査では、協力者に三つのキーワードで記してもらった。協力者は219人だったが、三つまで書かなかった人もいたので、延べ数は604となり、具体例として、「気軽」「丁寧」「軽薄」「親近感」「男性的」「女性的」「ヤング」「おじさん」「おばさん」「中年」「お年寄り」を示したが、提示した例にとらわれず自由に記することを依頼した。
10人以上の人が書いた「どうも」のイメージを表す語と、協力者全体の百分率をグラフ7に示す。「どうも」のイメージを「気軽」と捉えた人が最も多く、半数以上に上っている。
プラス・マイナスで見ると、「気軽」「軽い」「曖昧」はプラスでもマイナスでも取れるが、「親近感」「便利」「丁寧」はプラスイメージ、「軽薄」「失礼」はマイナスイメージである。

ほかにプラス語感を持つキーワードとしては、
「相手に好感象」「万能」「明るい」「以心伝心」「信頼感」「丁寧」「さっぱりしている」「重すぎず軽すぎず」の8語が挙げられるが、マイナス語感を表すワードは更に多く、「中途半端」「うじうじした男性」「無感情」「ことば足らず」「正しくない」「無愛想」「日本語の乱れ」
「わざわざ美しい様子」「丁寧さに欠ける」「無礼」「非礼」「気軽すぎるようにない方がいい」「粗略・粗雑」「手抜き」「無意味」「あまりしたくない挨拶」「ことばを濁す」「違和感」「会話が苦手な若者」「ほっきりしない」等々21語が記されていった。

5.2 自由記述に見られる「どうも」のイメージ

また、アンケート [IX] に自由に記載された 96 の回答を「どうも」に対する評価という点から分類すると、プラスの評価 6 マイナスの評価 24、プラス・マイナス両面の評価 17、評価に言及しないもの 49 であった。

プラスの評価を示すものとしては、「どうもねー」「どうも」と別れの際に言うことがある。好きな言葉」 (30代・女)「相手との距離がつかめない時もしごく便利なことば」 (50代・男)「具体的に言われなくても大いさつ、お礼、親近感を伝えられる便利なことば」 (50代・女)「おだやかな感じがする」 (40代・男) などがあり、マイナスの評価を示すものとしては、「どうも」はバカにしている感じがして自分では使いたくないし、相手に使われると不愉快に感じる」 (40代・女)「どうも」を丁寧な挨拶の略として使うのはあまり好きではない。「どうも、どうも」と言いながら部屋に入ってくる人がよくいるが、何ともなく軽く感じてる」 (50代・女)「どうも」ひと言だけでも使うことにあまり好感を持たないので (20代・女) 等々があった。

プラス・マイナスの評価を示す記述としては、「言い方や表情によって、軽薄な印象でも丁寧な印象も得られると思」 (20代・女)「便利で手軽な言葉だが、あまり気持ちを込めた表現とは感じない。自分は多用したくない」 (50代・男)「個人的にはキレイな言葉。どうして受け取れる軽薄さがキレイ。でもそれ以上に便利なことばだと思う」 (30代・男) などと述べられていた。

以上のように統計から見ても、記述から見ても、「どうも」は、
好き・嫌い両方の印象が持たれている挨拶である。この点で「お早うございます」や「ありがとうございます」のように、みんなに好感を持たれている挨拶表現ではない、と言えるのである。

このようにプラスにもマイナスにも印象が持たれている「どうも」は、教室で外国人に教える挨拶として、ふさわしいのであろうか。最後に、本稿の締めに代えて、特に初級日本語の教室での「どうも」の扱いについて、調査結果を紹介しながら私見を述べたい。

6．「どうも」を外国人に教えることについての可否

6.1 外国人が「どうも」と礼を述べることに対する感想について

台湾でも多く用いられている代表的な日本語教科書のひとつ、「みんなの日本語」には特に「どうも」の使用が多く、第1課から第13課に14箇所の提示が見られる。そのすべては軽く謝礼を述べる場面で提示され、出会い、別れ、謝罪などの場面では提示されない。

アンケート・設問[IV]では第10課の練習問題に用いられている二例を挙げ、外国人がAのように「どうも」を使うことについての意見を求めた。

第1は、同僚に対する軽い礼で、これをαとする。
A すみません。ミラーさんのはいすか。
B いいえ、会議室にいます。
A そうですか、どうも。

第2は、未知の通行人に対する軽い礼で、これをβとする。
A あのう、近くに郵便局がありますか。
B ええ、あそこに高いビルがありますね、あの
A わかりました、どうも。

（α・βの下線は筆者による）
前ページの二例について、1. 適切な挨拶だとおもう、2. やや無礼だと思う、3. とても無礼だと思う、4. 特に何も思わない、5. その他、の選択肢を設けて感想を尋ねたが、グラフ8に示すように、[α]の、同僚にミラーさんの所在を教えてもらった場合には、「適切だと思う」とプラスに評価する人が21.9％、「何も思わないと」という人が40.6％で、抵抗感を持たない人が60％以上となった。しかし、「やや無礼だ」（24.2％）「とても無礼だ」（1.4％）を合わせると25.6％、四人に一人が無礼だと評しているのも無視しがたいことである。

他方、未知の人に対して道を尋ねて教えてもらった場合に「どうも」だけという応答に対しては、「適切」と判断する人は16.0％しかいない。38.4％の人がやや無礼だと感じ、8.2％の人がとても無礼だと感じている。つまり、46.6％、半数近くの人が、あまりいい印象を持たないわけではない。

[IV]の「その他」の後に設けた自由記載欄の71のコメントには、この状況では『どうも』の語尾は『ありがとうございました』の意味があると解釈できるから適切』（20代・女）、「外国人なら許す、日本人同士なら無礼だと思う」（40代・女）、「日本語に堪能な人だと思う」（50代・男）などの客観的な好意的・客観的言葉が24例見られた。また『どうも』と同時に動作（この場合は会釈）を入れば、それだけで意志が伝わると思う』（30代・女）、『感謝のメッセージ（軽く頭を下げて等）を伴っているばよい』（50代・女）と身体表現が『どうも』の不十分さを補える、と述べた人もあり、実際[IX]には『ア
メガカ人の友人・男は軽く礼をしつつ『どうも』と言うのが、彼の
お礼の短絡形だった」（20 代・女）という経験も述べられていた。
しかし他方、「『どうも』の後に言葉がないと無礼になると思う」
（20 代・女）、「はっきりとしたお礼の言葉が続かないと物足りない
感じが残る」（60 代・女）、「少し違和感を感じる」（20 代・男）、「外
国人の日本語の語学力によって異なる。初心者なら仕方がないと思
うし、上級者だったら正しくないと言ってあげる」（70 代・女）、と
不適切感を示す人も 29 人に及んだ。
加えて、「短い接触時間を締めくる言葉として端的によいと思
うが、『どうも』を『ありがとうございます』の意味だと教えてしまう
と、重要な場面でも使ってしまう。周囲に無礼だと思われるか
もしれない」（30 代・女）、「外国人に教えるとしたら正しくないと
思う。日本語として省略していない言葉を教えるべきだ」（40 代・
女）などと外国人に『どうも』を挨拶として教えることに危惧を示
した人、発音できないという意見が数例あった。「本文では『どうも』
に続く言葉を教え、『注』の形で『どうも』だけで用いる場合もある
ことを教える方がいいのではないか」という意見もあった（60 代・
女）。

6.2 日本語教育における外国人への「どうも」の教え方
井出祥子氏（2006：166-174）には、社交的な場面での敬語より
職場での敬語は軽い、と述べられているが、勤務時間中に「誰々さ
んはいますか」「誰々さんはどこですか」と同僚の所在を尋ねるよう
な簡単な質問をし、答えてもらった場合に、「どうも」と軽く礼を言
うのは日本人なら日常的であるようにも思われる。それにかかわ
らず、四分の一に近い人々が、外国人が「そうですか、どうも」と
応じることに「やや無礼だ」と言えているのは、理不尽である。だ
が、このことからも、外国人には丁寧で端正な言葉遣いを求める、
という日本人の性向が観われるのである。
1980 年に、朝日カルチャーセンターの日本語教師養成講座で故小
出詞子先生の講義を受けていた時、日本人は外国人に対しては、端正な日本語を求める傾向があるので、インフォーマルな表現は開かせるととどめ、実際にそれを使っての練習をさせない方がいい、というご指導を受けた。

日本人は、外国人に馴れ馴れしい言葉遣いをされることに抵抗感を抱きがちである。今回の調査でも、「外国人なら許す」（40代・女）という言葉の記述も7例あったが、「相手が外国人だとどうもありがとうどうもありがとうございます」という言葉を期待してしまう。デンマーク人の友人が電話で「どうも」と言うのに抵抗感があった（50代・女）。「少々私は考える」と答える（30代・男）と外国人には度度のある日本語を使ってほしいという感想もあり、日本人との距離の取り方の難しさを嘆わせる。

実は調査協力者の「外国人なら許す」という外国人とは、或いは見かけ上は日本人とは明らかに違う人ということではないかとも推測され、日本人と似ている台湾人は東アジアの外国人は、この点からも少し危ないかもしれない。しかも前掲の調査協力者の意見にも「初心者なら仕方がないと思うし、上級者だったら正しくないと言ってあげる」とあるように、上級者になるほど、日本人と同様な待遇表現を使いこなすことが要求される傾向がある。

したがって学生に教えるときには、「どうも、ありがとうございます」「ありがとうございます」を付し、「どうも」だけを単独では使わないようにと指導する方が、学生たちの将来を思うと無難ではないかと思われるのである。

けれども、「どうも」の独立用法が広範に用いられている日本語の表現であるからには、日本語教育の場でも無視はできない。どのように扱うか、筆者の考えでは、学生から質問が出たり、教材に提示があったりした場合には、「どうも」が日本人に広く用いられている挨拶であることを教え、口頭練習はせずに、むしろ場や待遇を考えずに使うことによる危険性に、注意を向けさせるようにした方がいいと思う。それというのも、日本語を母語としている日本人の多く
は、どういう場合に「どうも」単独で使ってもいいか、また避ける方がいいか瞬時に判断できるが、外国語として日本語を習得する場
合にはとっさの判断は難しいからである。例えば上位aの場合、「い
いえ、会議室にいます」と答えたBが上司なら、Aは「どうも」と
は言わず、「そうですか、ありがとうございました」と「失礼しま
した」とかと言うはずです。アンケートで「どうも」を軽礼の場
面で使うと答えた71.6％の人々も、あらゆる軽礼の場面で「どうも」
と言っているわけではなく、軽い軽礼として使ったり、「皮肉」「相
手と距離を取りたい」などのニュアンスを込めて使ったりしている
のであった。

しかし外国語として日本語を習い、初級の段階で口頭練習までし
て習得した場合には、「どうも」が発音しやすい言葉であるだけに濫
用してしまう意図は払拭できない。事実、プラスマイナスの評価には
言及していないが、「日本語を話す台湾人は日本人より「どうも」を
多くするように感じられる」（30代・女）というコメントもあった。

日本語を教える立場として一番避けたいのは、学生達が志を立て
学習したにもかかわらず、私たち教師が教えた、ほかならぬその日
本語の使い方によって、「顔を向けず」が「無礼だ」とかと思われ
、人間関係やビジネスなどの場面で本人達が気付かないうちに不
利益を被ることである。それゆえ、初級日本語の段階での「どうも」
の導入、特に口頭練習は避けるべきではないかと思われるのである
が、いかがであろうか。

本稿は2010年8月1日、2010年世界日本語教育大会（台湾政治
大学）で発表した予稿に、加筆修正を施したものである。

謝辞：調査にご協力下さった皆様に、心から感謝申し上げます。

【参考文献】
井出祥子 2006 『わきまえの語用論』大修館書店 p. p. 166-174
金田一春彦 1975 『日本人の言語表現』講談社現代新書 p.38-40
佐治圭三 1995 『なにか』『なんだか』『どうも』など』『日本語日本文学 第7号』同志社女子大学 1995年
沢木幹栄・杉戸清樹 1999 「世界のあいさつ言葉の対照研究に向けて」『国文学 解釈と教科の研究』44巻6号 (1999年5月号)
p.131-132
鈴木孝夫 1968 「あいさつ論」『言語生活』No.196 (1968年8月号)
p.19-30
住田幾子 1993 「日本語のあいさつことば－『どうも』のはたらきについて－」『日本文学研究 29』梅光女学院大学日本文学学会
p.215-223
渋屋芳子 2010 「日く言い難い心情を表す『どうも』について」台湾日本語教育学会 2010年4月10日の春季日語教學研究発表
(於靜宜大學)予稿集、12月『日語教學實踐報告集』に掲載

【調査での使用教科書】
スリーニューネットワーク 1999 『大家の日本語 初級Ⅰ』大新書局
p.127

【用例出典】
高屋奈月 2001『フルーツバスケット [7]』白泉社 p.24
植村聡 2009 『おくりびとが流した涙』ぶんか社 ぶんか社文庫
p.120

【参考URL】
工藤浩 1083 「程度副詞をめぐって」渡辺実編『副用語の研究』収録
『三鷹日本語研究所』ホームページにアップロード 1-5
http://www.ab.cyberhome.ne.jp/~kudohiro/degree.html

2011年2月28日原稿受領 2011年3月20日審査通過
論文と教育研究報告の投稿に関する外部審査の結果、全投稿19本中、14本が掲載された。今号の掲載率は74.7%である。
CONTENTS

Foreword
Tseng, Chiu-kuei  The 29th publication foreword ................................................................. 1

Research Articles
Tseng, Chiu-kuei  Haruki Murakami’s ‘IQ84’ deciphered from narrtor’stricks:
                  From view point of the person named Ushikawa ........................................... 3
Tokumaga Mitsuhiro Female identity and cultivation of the elite:A study of Obedient Warrior by
                      Saburo Shiroyama ....................................................................................... 29
Toda Kazuyasu  “Yoake” and “Beiki-Haisou” by Ye shi-tao:
                  On concerning the tendency of ideology which is seem to early Japanese works
                  .......................................................................................................................... 53
Ku, Chin-fen  The Voice of Sizu in “Heart” ................................................................. 77
Wang, Wei-ling  "Time" and "Space" of "The introducer of dead body"
                  ............................................................................................................................ 101
Cheng, Chia-yu  Portrait of Empire Yuuryaka in “Kojiki” ........................................... 125
Huang, Ju-ping  The influence of Dickens on Rampo Edogawa’s “The Human Chair” .... 147
Ochiai Yuji  Form and the function of visual element in media texts .......................... 169
Wu, Chun-fang  Observe the introduction of topic by CSJ(Corpus of Spontaneous Japanese):
                  From the viewpoint of Politeness theory .................................................................. 195
Hamaya Masako  On “Doumo” As a Greeting:
                  Is It Appropriate To Teach “Doumo” in Beginner’s Classes? .......................... 221
Otachi Kurie  The “learning” happens in the “Language community”:
Lo, Hsiiao-chin  "Language community means ‘E-mail which is the fictional space” .... 247
Chiang, Hsiu-tzu  The Effects of Learning Years and Language Proficiency on Vocabulary
                  Learning Strategies of Taiwanese JFL University Students ................................ 267

Survey Articles
Huang, Su-miao  The Construction and Collocation Analysis of “Japanese - Chinese Parallel Corpus”:
                  A comparative example With CTLJ ...................................................................... 291
Yang, Yu-wen  Effects of Teaching Japanese Phonetic Education through “Dubbing”:
                  With Emphasis on Speech Communication .......................................................... 317
Kawai Rie

Activities Report
Abstract of report in regular meetings .............................................................................. 343

June 2011

JAPANESE LANGUAGE & LITERATURE ASSOCIATION OF TAIWAN